

2021年2月1日

# 2021年3月期第3四半期 決算カンファレンスコール

代表取締役社長  
谷本 秀夫

# 1. 2021年3月期第3四半期 決算概要

## 2021年3月期第3四半期累計 決算概要

(単位：百万円)

	2020年3月期 第3四半期累計		2021年3月期 第3四半期累計		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	率
売上高	1,196,885	100.0%	<b>1,100,534</b>	<b>100.0%</b>	-96,351	-8.1%
営業利益	94,860	7.9%	<b>42,983</b>	<b>3.9%</b>	-51,877	-54.7%
税引前利益	141,629	11.8%	<b>87,216</b>	<b>7.9%</b>	-54,413	-38.4%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	101,265	8.5%	<b>63,931</b>	<b>5.8%</b>	-37,334	-36.9%
設備投資額	83,027	6.9%	<b>89,123</b>	<b>8.1%</b>	6,096	7.3%
有形固定資産 減価償却費	45,313	3.8%	<b>54,011</b>	<b>4.9%</b>	8,698	19.2%
研究開発費	58,908	4.9%	<b>54,242</b>	<b>4.9%</b>	-4,666	-7.9%
平均為替レート	ドル	109円	<b>106円</b>			
	ユーロ	121円	<b>122円</b>			

(ご参考) 2021年3月期第3四半期累計 為替変動による影響額 (前年同期比)：売上高 約 -100億円、税引前利益 約 -10億円

## 2021年3月期第3四半期累計 業績サマリー

### 1. 新型コロナウイルス感染症による主要市場での需要減

- ✓ ドキュメント市場や自動車関連市場における需要は、第1四半期を底に回復基調で推移したものの、第3四半期累計では前年同期比で減少

### 2. 「生活・環境」において減損損失 115億円を計上

- ✓ スマートエナジー事業での、有形固定資産及びのれん等の減損損失を計上

### 3. 半導体及び5G関連部品の需要増

- ✓ 産業・自動車用部品：半導体製造装置用ファインセラミック部品の需要が増加
- ✓ 半導体関連部品：5G対応端末向けに、イメージセンサー用及び水晶・SAWデバイス用パッケージの需要が増加

## 2021年3月期第3四半期累計 事業セグメント別売上高

(単位：百万円)

	2020年3月期 第3四半期累計		2021年3月期 第3四半期累計		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
産業・自動車用部品	253,754	21.2%	<b>258,502</b>	<b>23.5%</b>	4,748	1.9%
半導体関連部品	187,090	15.6%	<b>193,305</b>	<b>17.6%</b>	6,215	3.3%
電子デバイス	248,780	20.8%	<b>221,672</b>	<b>20.1%</b>	-27,108	-10.9%
部品事業 計	689,624	57.6%	<b>673,479</b>	<b>61.2%</b>	-16,145	-2.3%
コミュニケーション	※ 198,128	16.6%	<b>164,926</b>	<b>15.0%</b>	-33,202	-16.8%
ドキュメントソリューション	267,524	22.3%	<b>226,081</b>	<b>20.5%</b>	-41,443	-15.5%
生活・環境	※ 54,220	4.5%	<b>45,823</b>	<b>4.2%</b>	-8,397	-15.5%
機器・システム事業 計	519,872	43.4%	<b>436,830</b>	<b>39.7%</b>	-83,042	-16.0%
その他	12,510	1.1%	<b>12,746</b>	<b>1.2%</b>	236	1.9%
調整及び消去	※ -25,121	-2.1%	<b>-22,521</b>	<b>-2.1%</b>	2,600	-
売上高	1,196,885	100.0%	<b>1,100,534</b>	<b>100.0%</b>	-96,351	-8.1%

※2020年4月1日に、「コミュニケーション」に含まれる当社国内子会社 京セラコミュニケーションシステム(株)が、「生活・環境」に含まれていた同 (株)京セラソーラーコーポレーションを吸収合併しました。これに伴い、上記の「2020年3月期第3四半期累計」の業績は、吸収合併後の事業セグメントに組み替えて表示しています。

## 2021年3月期第3四半期累計 事業セグメント別利益

(単位：百万円)

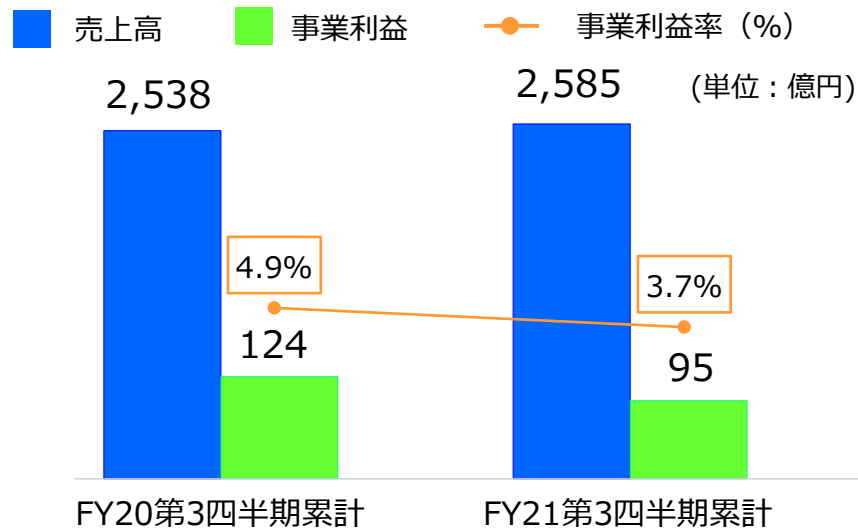
	2020年3月期 第3四半期累計		2021年3月期 第3四半期累計		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	率
産業・自動車用部品	12,444	4.9%	<b>9,500</b>	<b>3.7%</b>	-2,944	-23.7%
半導体関連部品	22,998	12.3%	<b>19,491</b>	<b>10.1%</b>	-3,507	-15.2%
電子デバイス	36,474	14.7%	<b>16,686</b>	<b>7.5%</b>	-19,788	-54.3%
部品事業 計	71,916	10.4%	<b>45,677</b>	<b>6.8%</b>	-26,239	-36.5%
コミュニケーション	※ 7,066	3.6%	<b>6,906</b>	<b>4.2%</b>	-160	-2.3%
ドキュメントソリューション	27,498	10.3%	<b>18,351</b>	<b>8.1%</b>	-9,147	-33.3%
生活・環境	※ -7,417	-	<b>-20,874</b>	-	-13,457	-
機器・システム事業 計	27,147	5.2%	<b>4,383</b>	<b>1.0%</b>	-22,764	-83.9%
その他	-3,133	-	<b>-1,700</b>	-	1,433	-
事業利益 計	95,930	8.0%	<b>48,360</b>	<b>4.4%</b>	-47,570	-49.6%
本社部門損益等	※ 45,699	-	<b>38,856</b>	-	-6,843	-15.0%
税引前利益	141,629	11.8%	<b>87,216</b>	<b>7.9%</b>	-54,413	-38.4%

※2020年4月1日に、「コミュニケーション」に含まれる当社国内子会社 京セラコミュニケーションシステム(株)が、「生活・環境」に含まれていた同 (株)京セラソーラーコーポレーションを吸収合併しました。これに伴い、上記の「2020年3月期第3四半期累計」の業績は、吸収合併後の事業セグメントに組み替えて表示しています。

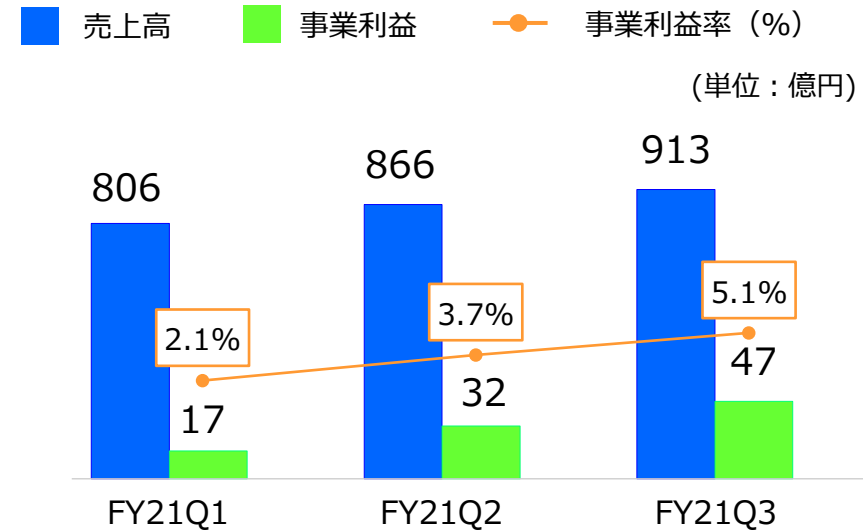
# 2021年3月期第3四半期累計 事業セグメント別業績

## (1) 産業・自動車用部品

### FY21第3四半期累計



### FY21四半期推移



#### <前年同期比 増減要因>

- + M&Aの貢献による空圧・電動工具の増収、及び半導体製造装置用部品の売上増
- ディスプレイ等の自動車関連部品の売上減
- 自動車関連部品の売上減及び減価償却費の増加等により、減益

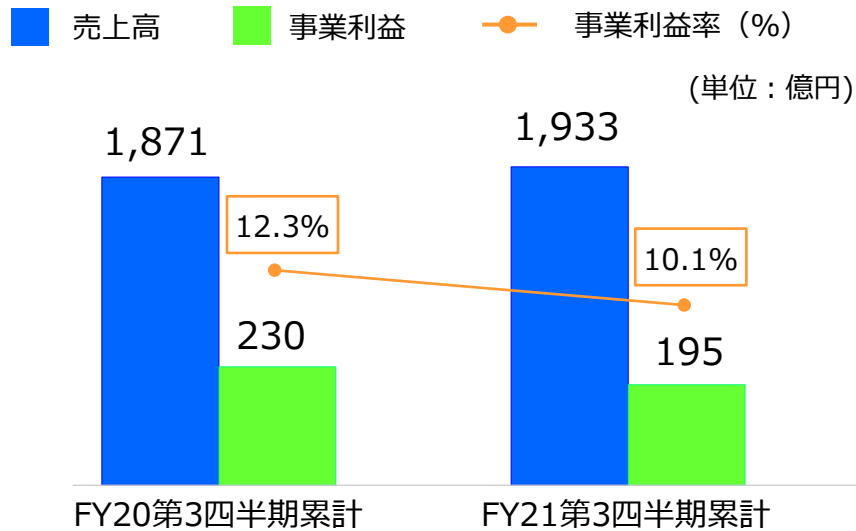
#### <FY21Q1~Q3の業績推移の背景>

- + Q1を底に、車載カメラや切削工具等の自動車関連市場向け製品の需要回復が継続
- + 半導体製造装置用部品の需要は高水準で推移
- + 売上増に伴い、事業利益・事業利益率ともに改善

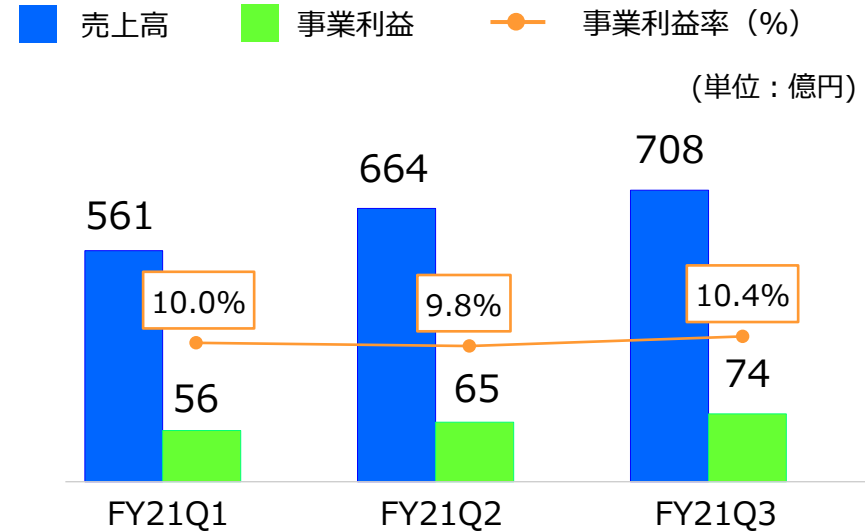
# 2021年3月期第3四半期累計 事業セグメント別業績

## (2) 半導体関連部品

### FY21第3四半期累計



### FY21四半期推移



#### <前年同期比 増減要因>

- + 5G対応スマートフォン向けにセラミックパッケージの需要が増加
- 車載向け有機多層ボード等の需要減
- 減価償却費の増加等により、事業利益は減少

#### <FY21Q1~Q3の業績推移の背景>

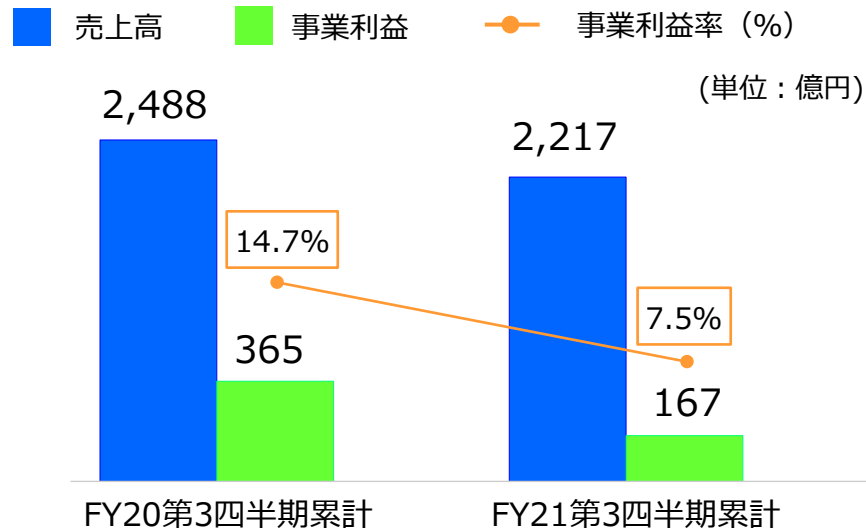
- + 5G対応スマートフォン向けを中心にセラミックパッケージの需要は堅調に推移
- + 売上増に伴い、事業利益は改善



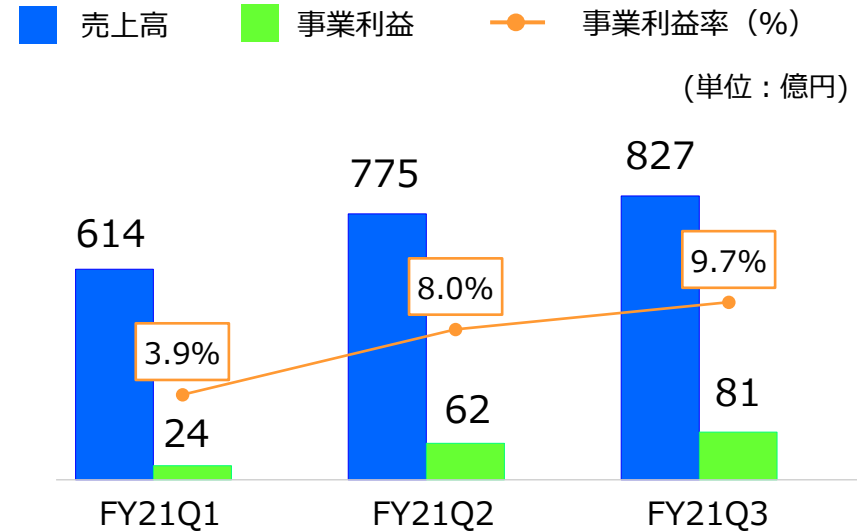
# 2021年3月期第3四半期累計 事業セグメント別業績

## (3) 電子デバイス

### FY21第3四半期累計



### FY21四半期推移



#### <前年同期比 増減要因>

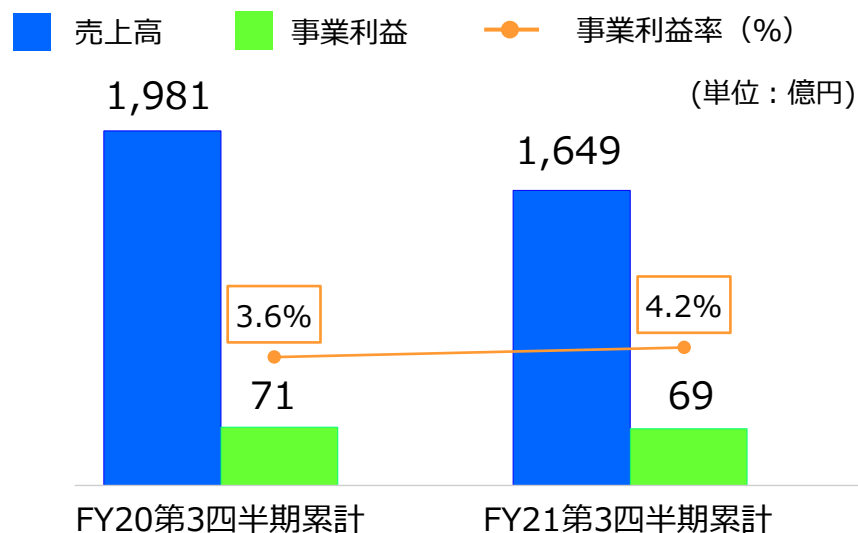
- 産業機械市場や自動車市場等での需要減によるAVX Corporationの売上減
- 減収を主因に減益

#### <FY21Q1~Q3の業績推移の背景>

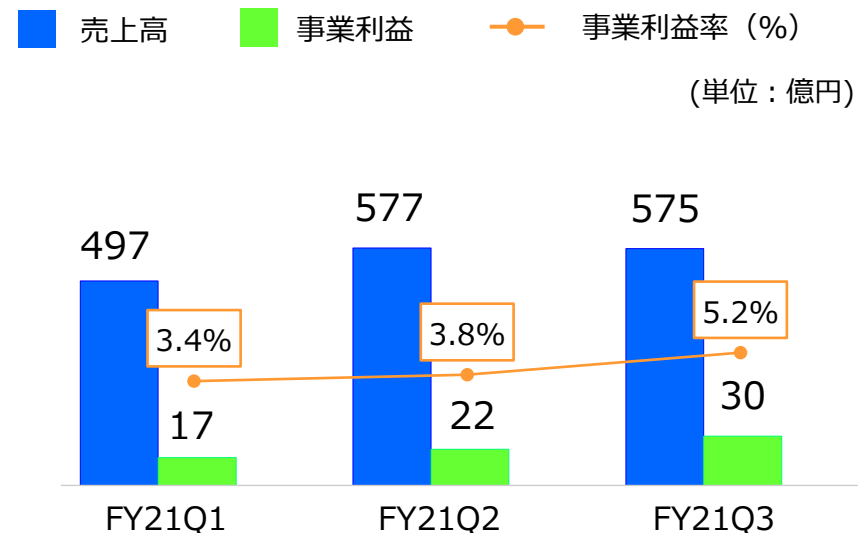
- + 自動車関連市場等の回復に伴う、AVX Corporationや、水晶部品、コネクタの売上増
- + 主要顧客の需要回復に伴い、Q2以降、5G対応スマートフォン向けセラミックコンデンサや水晶部品の需要は堅調に推移
- + 捺染市場向けプリンティングデバイスの需要回復

# 2021年3月期第3四半期累計 事業セグメント別業績 (4) コミュニケーション

## FY21第3四半期累計



## FY21四半期推移



### <前年同期比 増減要因>

- 通信機器事業における携帯電話端末の販売台数減
- 情報通信サービス事業におけるエンジニアリング事業の売上減
- + 事業利益率は原価低減等により、改善

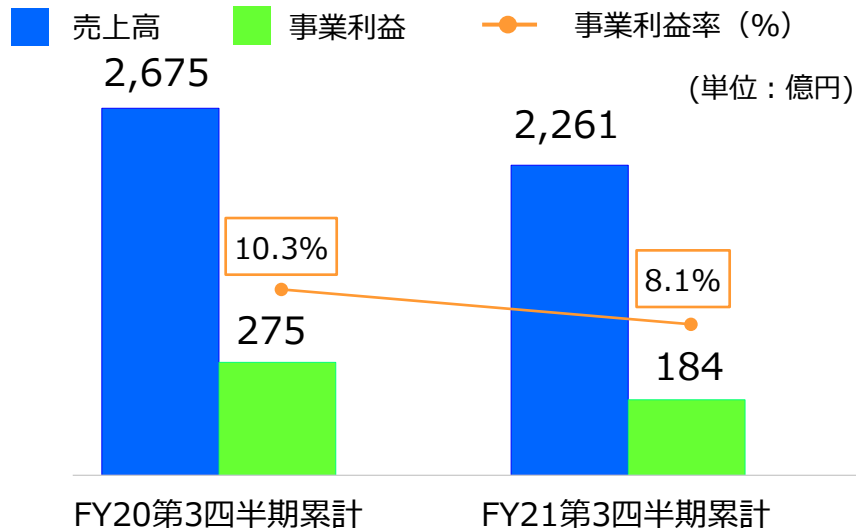
### <FY21Q1~Q3の業績推移の背景>

- + 通信機器事業、情報通信サービス事業ともに需要は回復傾向
- + 原価低減効果もあり、事業利益率は改善

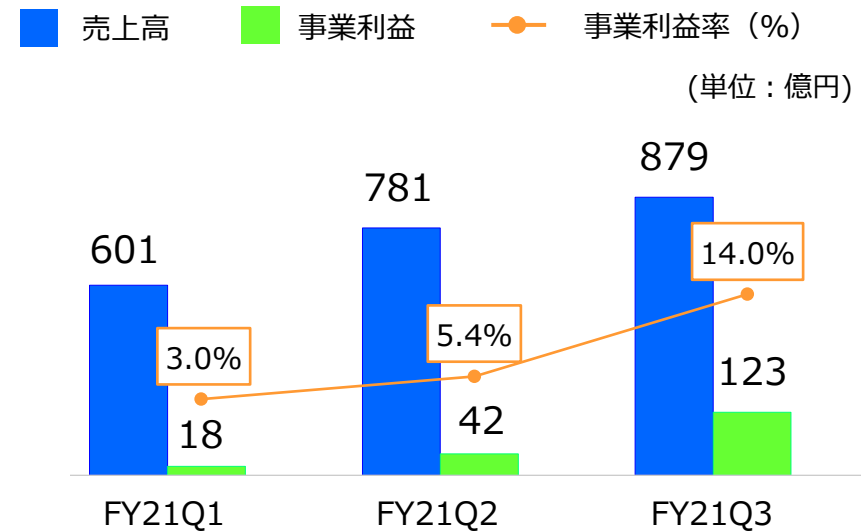
# 2021年3月期第3四半期累計 事業セグメント別業績

## (5) ドキュメントソリューション

### FY21第3四半期累計



### FY21四半期推移



#### <前年同期比 増減要因>

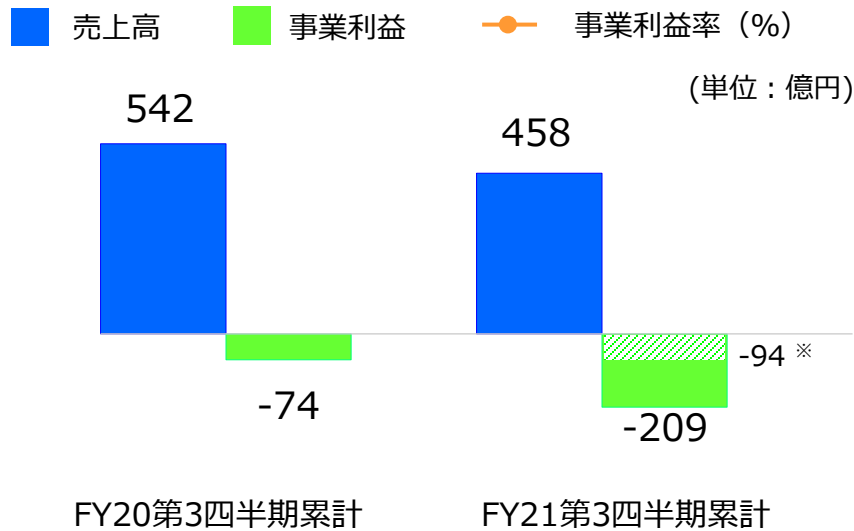
- オフィスへの出勤抑制に伴うプリンター、MFP、消耗品の需要減

#### <FY21Q1~Q3の業績推移の背景>

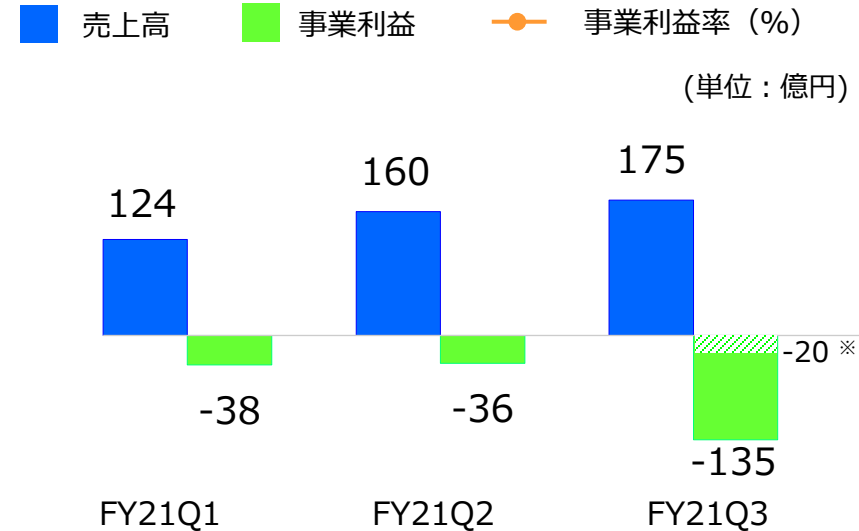
- + 世界的に機器や消耗品、サービスの需要が回復
- + オフィスへの出勤抑制の緩和に伴う需要増、及び原価低減、並びに為替の影響もあり、Q3の事業利益は大きく改善

# 2021年3月期第3四半期累計 事業セグメント別業績 (6) 生活・環境

## FY21第3四半期累計



## FY21四半期推移



### <前年同期比 増減要因>

- ➖ スマートエナジー事業における、太陽光発電システム等の販売減
- ➖ 同事業において有形固定資産及びのれん等の減損損失115億円を計上

### <FY21Q1~Q3の業績推移の背景>

- ⊕ スマートエナジー事業において、国内市場での営業活動の段階的な再開に伴い、太陽光発電システム等の販売が増加
- ➖ Q3に減損損失を計上したものの、この影響を除くベースでは、採算改善が進展

※ 有形固定資産及びのれん等の減損損失 115億円を除いた場合の事業利益

## **2. 2021年3月期 業績予想**

## 2021年3月期 業績予想

(単位：百万円)

	2020年3月期		2021年3月期 予想		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	率
売上高	1,599,053	100.0%	<b>1,500,000</b>	<b>100.0%</b>	-99,053	-6.2%
営業利益	100,193	6.3%	<b>75,000</b>	<b>5.0%</b>	-25,193	-25.1%
税引前利益	148,826	9.3%	<b>120,000</b>	<b>8.0%</b>	-28,826	-19.4%
親会社の所有者に帰属する当期利益	107,721	6.7%	<b>88,000</b>	<b>5.9%</b>	-19,721	-18.3%
基本的EPS (円)	297.36	—	※1 <b>242.80</b>	—	-54.56	—
設備投資額	106,003	6.6%	※2 <b>110,000</b>	<b>7.3%</b>	3,997	3.8%
有形固定資産 減価償却費	62,413	3.9%	<b>75,000</b>	<b>5.0%</b>	12,587	20.2%
研究開発費	79,241	5.0%	※2 <b>75,000</b>	<b>5.0%</b>	-4,241	-5.4%
平均為替レート	ドル	109円		<b>105円</b>		
	ユーロ	121円	※2	<b>123円</b>		

(ご参考) 2021年3月期 為替変動による影響額 (前期比)：売上高 約 -170億円、税引前利益 約 -15億円

※1：EPSは、2021年3月期第3四半期累計の期中平均株式数を用いて算出しています。

※2：2020年4月27日に公表した業績予想 (前回予想) から修正しています。

前回予想：設備投資額 100,000百万円、研究開発費 80,000百万円、ユーロ平均為替レート 115円

## 2021年3月期 事業セグメント別売上高予想

(単位：百万円)

	2020年3月期 実績		2021年3月期 予想				増減金額	
			前回予想 (10月公表)		今回予想			
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	前期比	前回予想比
産業・自動車用部品	341,093	21.3%	330,000	22.0%	<b>350,000</b>	<b>23.3%</b>	8,907	20,000
半導体関連部品	247,228	15.5%	245,000	16.3%	<b>255,000</b>	<b>17.0%</b>	7,772	10,000
電子デバイス	324,113	20.3%	316,000	21.1%	<b>300,000</b>	<b>20.0%</b>	-24,113	-16,000
部品事業 計	912,434	57.1%	891,000	59.4%	<b>905,000</b>	<b>60.3%</b>	-7,434	14,000
コミュニケーション	※ 270,818	17.0%	241,000	16.1%	<b>234,000</b>	<b>15.6%</b>	-36,818	-7,000
ドキュメントソリューション	359,915	22.5%	313,000	20.8%	<b>316,000</b>	<b>21.0%</b>	-43,915	3,000
生活・環境	※ 73,747	4.6%	67,000	4.5%	<b>64,000</b>	<b>4.3%</b>	-9,747	-3,000
機器・システム事業 計	704,480	44.1%	621,000	41.4%	<b>614,000</b>	<b>40.9%</b>	-90,480	-7,000
その他	16,737	1.0%	19,000	1.3%	<b>16,000</b>	<b>1.1%</b>	-737	-3,000
調整及び消去	※ -34,598	-2.2%	-31,000	-2.1%	<b>-35,000</b>	<b>-2.3%</b>	-402	-4,000
売上高	1,599,053	100.0%	1,500,000	100.0%	<b>1,500,000</b>	<b>100.0%</b>	-99,053	0

※2020年4月1日に、「コミュニケーション」に含まれる当社国内子会社 京セラコミュニケーションシステム(株)が、「生活・環境」に含まれていた同 (株)京セラソーラーコーポレーションを吸収合併しました。これに伴い、上記の「2020年3月期 実績」は、吸収合併後の事業セグメントに組み替えて表示しています。

## 2021年3月期 事業セグメント別利益予想

(単位：百万円)

	2020年3月期 実績		2021年3月期 予想				増減金額	
			前回予想 (10月公表)		今回予想			
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	売上高比	前期比	前回予想比
産業・自動車用部品	15,813	4.6%	13,000	3.9%	<b>17,000</b>	<b>4.9%</b>	1,187	4,000
半導体関連部品	30,511	12.3%	30,000	12.2%	<b>28,000</b>	<b>11.0%</b>	-2,511	-2,000
電子デバイス	31,744	9.8%	30,000	9.5%	<b>28,000</b>	<b>9.3%</b>	-3,744	-2,000
部品事業 計	78,068	8.6%	73,000	8.2%	<b>73,000</b>	<b>8.1%</b>	-5,068	0
コミュニケーション	※ 11,259	4.2%	11,000	4.6%	<b>12,000</b>	<b>5.1%</b>	741	1,000
ドキュメントソリューション	34,489	9.6%	20,000	6.4%	<b>30,000</b>	<b>9.5%</b>	-4,489	10,000
生活・環境	※ -10,965	-	-14,000	-	<b>-24,000</b>	-	-13,035	-10,000
機器・システム事業 計	34,783	4.9%	17,000	2.7%	<b>18,000</b>	<b>2.9%</b>	-16,783	1,000
その他	-4,484	-	-4,000	-	<b>-5,000</b>	-	-516	-1,000
事業利益 計	108,367	6.8%	86,000	5.7%	<b>86,000</b>	<b>5.7%</b>	-22,367	0
本社部門損益等	※ 40,459	-	34,000	-	<b>34,000</b>	-	-6,459	0
税引前利益	148,826	9.3%	120,000	8.0%	<b>120,000</b>	<b>8.0%</b>	-28,826	0

※2020年4月1日に、「コミュニケーション」に含まれる当社国内子会社 京セラコミュニケーションシステム(株)が、「生活・環境」に含まれていた同 (株)京セラソーラーコーポレーションを吸収合併しました。これに伴い、上記の「2020年3月期 実績」は、吸収合併後の事業セグメントに組み替えて表示しています。



## 成長に向けての事業基盤強化（1） GaN事業への参入

### GaN(窒化ガリウム)：低炭素社会の実現に貢献する基幹材料

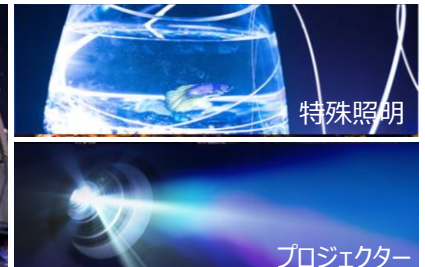
GaN技術を基盤とするレーザー光源の商用化におけるリーディングカンパニー

## SLD Laser社のM&A (2021年1月実施・買収金額 約500億円)

- (1) 事業内容：モビリティ、特殊照明、コンシューマ、産業用等のGaN製レーザー製品の製造・販売
- (2) 技術の強み：GaNを用いた高効率・高出力レーザー技術及び目や肌に害がない安全性

【SLD Laser社の製品イメージ】

【主なアプリケーションでの使用例】



- ・ SLD社の製品や技術を活用した、デバイス及びシステム開発の加速
- ・ 京セラの生産技術投入による、生産性及び収益性の向上

## 成長に向けての事業基盤強化（2） 研究開発体制の強化

- ・ 研究開発部門の連携強化による製品・技術開発のスピードアップ
- ・ オープンイノベーションや人材育成の推進

### 鹿児島国分工場：研究開発部門の新棟への集約

ものづくり研究所（材料技術）

生産技術部門（プロセス技術）

分析部門（解析評価技術）



(1) 投資総額：約100億円

(2) 建設計画：2021年1月着工、2022年9月操業(予定)

### 主な研究開発テーマ

情報通信

（5G・IoT向け部品）

環境・エネルギー

（SOFCセルスタック等）

新規分野

（航空・宇宙、医療・ヘルスケア）

# 2022年3月期の事業環境見通し及び取り組み

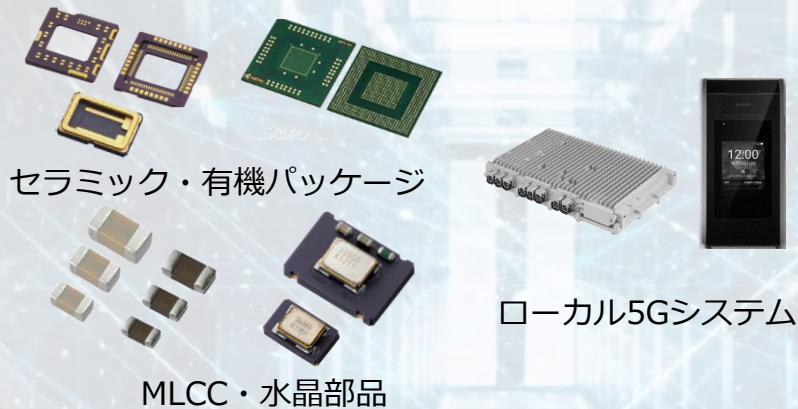
コロナ禍の継続が懸念されるものの、デジタル化やADAS等の更なる進展を見込む

## 戦略製品の増産及び開発の加速

### 5G及び半導体関連市場

#### 増産投資及び試験導入の収穫期

##### 5G関連製品



##### 半導体 製造装置用部品



### モビリティ市場

#### グループの総合力を活かした製品展開

##### 車載部品・デバイス



##### V2Iソリューション 関連製品



## 3. 組織再編について

# (1) 経営基盤の強化に向けた組織再編の実施

(2021年4月より)

現在16ある主要事業・子会社を、新3事業セグメントの下へ、  
管理部門を「コーポレート」へ集約

コアコンポーネント

電子部品

ソリューション

コーポレート

## 【成長に向けた組織の活性化】

既存組織の枠を超え、ダイナミックでスピーディーな経営判断の実践

事業部門を超えた  
戦略立案・実行

更なる人材の流動化・  
組織の活性化

経営資源の  
効率化/有効活用

## (2) 事業セグメント区分の変更

2018年3月期～2021年3月期

2022年3月期～

事業セグメント	主要事業・子会社
産業・自動車用部品	ファインセラミック部品
	自動車部品
	ディスプレイ
	機械工具
	光学部品
半導体関連部品	セラミック材料
	有機材料
電子デバイス	電子部品
	AVX Corporation
	プリンティングデバイス
コミュニケーション	通信機器
	情報通信サービス(KCCS <sup>※1</sup> )
ドキュメントソリューション	情報機器(KDC <sup>※2</sup> )
生活・環境	スマートエナジー
	医療機器
	宝飾・応用商品

事業セグメント	主要事業・子会社
コアコンポーネント	ファインセラミック部品
	自動車部品
	セラミック材料
	有機材料
	光学部品
	医療機器
	宝飾・応用商品
電子部品	電子部品
	AVX Corporation
ソリューション	機械工具
	ディスプレイ
	プリンティングデバイス
	情報機器(KDC <sup>※2</sup> )
	通信機器
	情報通信サービス(KCCS <sup>※1</sup> )
スマートエナジー	

※1 京セラコミュニケーションシステム(株)

※2 京セラドキュメントソリューションズ(株)



## 将来の見通しに関する記述等について

この資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点で入手できる情報に鑑みて、当社が予想を行い、所信を表明したものであり、既知及び未知のリスク、不確実な要因及びその他の要因を含んでいます。これらのリスク、不確実な要因及びその他の要因は下記を含みますが、これらに限られるものではありません。

- (1) 日本及び世界経済の一般的な状況
- (2) 当社が事業や輸出を行う国における経済、政治、法律面の諸条件の想定外の変化
- (3) 為替レートの変動が当社の事業実績に及ぼす影響
- (4) 当社製品が直面する激しい競争による圧力
- (5) 当社の生産活動に用いられる原材料のサプライヤーの供給能力及びその価格の変動
- (6) 外部委託先や社内工程における製造の遅延又は不良の発生
- (7) 今後の取り組み又は現在進行中の研究開発が期待される成果を生まない事態
- (8) 買収した会社又は取得した資産から成果や事業機会が得られない事態
- (9) 優れた人材の確保が困難となる事態
- (10) サイバー攻撃等により当社の情報セキュリティが被害を受ける事態及びその復旧や維持に多額の費用が必要となるリスク
- (11) 当社の企業秘密及び特許を含む知的財産権の保護が不十分である事態
- (12) 当社製品の製造及び販売を続ける上で必要なライセンスにかかる費用
- (13) 既存の法規制又は新たな法規制への意図しない抵触
- (14) 環境規制の強化による環境に関わる賠償責任及び遵守義務の負担
- (15) 世界的な気候変動に関連する諸課題への対応遅れによるコスト増や企業ブランドの低下を招く事態
- (16) 疾病・感染症の発生・拡大、テロ行為、国際紛争やその他類似の事態が当社の市場及びサプライチェーンに及ぼす影響
- (17) 地震その他の自然災害によって当社の本社や主要な事業関連施設並びに当社のサプライヤーや顧客が被害を受ける事態
- (18) 売掛債権の信用リスク
- (19) 当社が保有する金融商品の価値の変動
- (20) 当社の有形固定資産、のれん並びに無形資産の減損処理
- (21) 繰延税金資産及び法人税等の不確実性
- (22) 会計基準の変更

上記のリスク、不確実な要因及びその他の要因により、当社の実際の業績、事業活動、展開又は財政状態は、将来の見通しに明示又は黙示される将来の業績、事業活動、展開又は財政状態と大きく異なる場合があります。当社は、この資料に含まれている将来の見通しについて、その内容を更新し公表する責任を負いません。

THE NEW VALUE FRONTIER



京セラ株式会社